

## 山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	高精細MRIを用いた胆嚢癌の早期診断に関する検討		
② 実施予定期間	実施許可日から2029年3月31日		
③ 対象患者	以下の対象期間中に当院の対象診療科において胆嚢癌が疑われ、術前に高精細MRIを施行され、かつ手術が行われた患者さん。		
④ 対象期間	2020年6月1日から2025年12月31日		
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院		
⑥ 対象診療科	放射線科、第1内科、第1外科、第2外科		
⑦ 研究責任者	氏名	東 麻由美	所属 放射線科
⑧ 使用する情報等	<p>① 日常診療の記録から収集する項目（既存情報）： 識別コード、年齢（MRI検査時）、性別、BMI、現病歴、既往歴、生活歴、増大傾向の有無、病理組織結果、手術所見、超音波所見、PET所見、腫瘍マーカー（CEA、CA19-9）、画像データ（超音波、CT、MRI、PET）</p> <p>② 本研究で検討する項目（測定や解析情報）： MRI・CT画像において、病変のサイズ、形態、部位、内部信号、造影パターン、周囲組織浸潤の有無、随伴所見（胆石、壁内石灰化、壁内嚢胞、炎症合併の有無）、リンパ節腫大、遠隔転移の有無</p>		
⑨ 研究の概要	<p>呼吸停止下撮像が主体である腹部MRIでは撮像時間が制限され、これまで高コントラストかつ高分解能な高精細画像の取得は困難でした。そのため、病変の小さい早期胆嚢癌の検出や胆嚢癌の壁内浸潤診断におけるMRIの有用性は限られていました。胆嚢・胆管の部位別がん死亡率は全体の4.9%を占めます。近年、深層学習を用いた画像再構成法が臨床応用され、ノイズを低減した高精細MRI画像の取得が可能となり、胆嚢壁の微細構造や小病変の描出能向上が期待されています。胆嚢癌による胆嚢壁肥厚は慢性胆嚢炎や胆嚢腺筋腫症と類似し、しばしば良悪性の鑑別に苦慮することがあります。さらに胆嚢癌は壁内浸潤度により治療方針が大きく異なり、早期癌では低侵襲な腹腔鏡手術が可能である一方、進行</p>		

	<p>癌ではより侵襲的手術を要するため、術前に早期胆嚢癌を正確に診断する意義は大きいです。現在、早期胆嚢癌の診断には超音波検査が重要な役割を果たしていますが、術者依存性や体型・腸管ガスの影響を受けやすく、CTには放射線被曝の問題があります。このような背景から、高精細MRIによる新たな診断指標の確立が求められています。山口大学医学部附属病院（以下、当院）では、シーメンス社製の3テスラMRIを用いて、撮像範囲を絞って解像度を上げた拡散強調像、1mm厚のダイナミック造影を含む高精細MRIを2020年6月より撮像しています。</p> <p>本研究の目的は、胆嚢癌が疑われた症例の高精細MRIを用いて、良性疾患と悪性疾患の胆嚢MRI画像所見を比較することです。また、高精細MRI所見と病理所見および超音波・CT所見との比較検討も行います。MRI装置や撮像条件が異なると計測数値が変わってくるため、本研究ではシーメンス社製3テスラMRIで撮像された画像情報を用います。本研究により、胆嚢癌の早期診断における診断能向上を通じて、適切な治療方針選択への貢献が期待されます。</p>			
⑩ 実施許可	研究実施許可日	2026年3月2日		
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。			
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。			
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。			
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。			
⑮ 研究の資金源	放射線医学講座の奨学寄付金にて行います。			
⑯ 利益相反	ありません。			
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学医学部附属病院 放射線科 担当者：東 麻由美			
	電話	0836-22-2285	FAX	0836-22-2285